

好調な高値取引でスタート ● 和牛子牛市場平成26年度初セリ



多くの購買者を前に次々とパドックへ入場する子牛たち

雫石町のJA全農いわて中央家畜市場で1月17日までの3日間、和牛子牛市場平成26年度初セリが行われました。

うち16日は、県内外の購買者が見守る中、当JA分282頭を含む雌、去勢合わせて362頭が上場。最高値が約71万3千円、平均価格が約52万7千円（前年比120%）と昨年を上回り、好スタートを切りました。

当日はJA管内初セリという事で初市式が行われ、本田敏秋遠野市長があいさつ。JAの藤館政義常務理事も出席し、鏡開きや市場関係者たちと共に牛乳による献杯が行われ、今年の高値取引を期待しました。

豪雪地域で極寒の荒行 ● 長松垢離とり



勇ましい掛け声で一年の無病息災と五穀豊穡を祈願しました

国内屈指の豪雪地帯、西和賀町の無形民俗文化財「長松垢離とり」が1月12日、同町湯之沢地区で行われました。

同祭りは、山の安全や地域の無病息災、豊作を祈願する信仰行事で、山祇神社の「山の神」の年越しに当たる旧暦の12月12日に行われています。

当日は地元民をはじめ、祭り愛好者など他地域から過去最多の31人の男性が参加。気温が氷点下となる中、下帯姿の男衆が同神社に祈願後、岩滑沢（いわなめ）を目指し町内を勇ましく駆け抜けました。一斉に沢へ駆け降り、手を繋ぎ輪となり極寒の沢水に首まで浸かる荒行を三度行くと、熱気で男衆の体から湯気が立ちあがりました。

全国優秀賞など名作を表彰 ● 「第38回ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール



3



1

JAグループ主催の「第38回ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの表彰式が1月29日、盛岡市のホテルで行われました。

今回は県内の小中学校合わせて69校から422点が出品されました。当JA管内からは、図画部門において岩手県コンクールでは花巻市立湯口小学校5年生の佐藤拓さんの「田万寺田植えおどり」が最上位である岩手県知事賞に、花巻市立内川目小学校1年生の佐々木円さんの「おいしそうなおにぎりだ!!」が優秀賞に選ばれました。佐藤拓さんの作品は全国コンクールにおいて



4



2

1. 岩手県知事賞 佐藤 拓さん
2. 佐藤 拓さんの作品…躍動感が伝わる作品
3. 優秀賞 佐々木円さん
4. 佐々木円さんの作品…画面いっぱい印象的

も、応募総数6万9837点から優秀賞という栄誉に輝いています。

佐藤拓さんの作品は、郷土芸能の場面を衣装や動作、手先と目線の一体感など、よく観察して描かれており、豊作を願う気持ちが伝わってくる点が、佐々木円さんの作品は、画面にあふれんばかりのおにぎりと、喜びいっぱいの表現が印象的な点、それぞれに評価されての受賞となりました。

このほか田植えや稲刈りに取り組んだ様子の図画作品を応募した湯口小学校が学校奨励賞を受賞しました。

真っ黒に顔を染め無病息災 ● カラスの小正月



参加者は顔を墨で真っ黒に塗り合い、今年の無病息災や五穀豊穡を願いました

花巻市東和町の三熊野神社で1月13日、古くから伝わるユニークな行事「カラスの小正月」が行われました。

同行事は、同神社御社紋「二羽のカラス」に由来し戦前に同町内で行われていた魔除けの奇祭を、30年ほど前に復活させたもの。「どんと祭」の炭を使い顔を塗り合う催しです。日本古来の年中行事を子どもたちに伝え、地域の繋がりを深める場として地元住民が受け継いできました。

集まった地元の子どもと保護者など約50人が、「顔に塗られると良いことが訪れる」と、互いにひげを描いたり、真っ黒に染め合い、境内にはにぎやかな笑い声が響き渡りました。

地域伝承芸能を守り継ぐ ● 笠松田植踊保存会 第19回発表会



華やかな衣装を身に纏い、演舞を披露する児童ら

北上市の笠松田植踊保存会（平賀昭士会長）は1月13日、今年で19回目となる発表会を同市和賀町横川目の市立笠松小学校で開きました。

笠松田植踊は笠松地区に古くからあった伝統芸能で、かつては小正月行事として家々の軒先で踊られていました。昭和61年を最後に途絶えていましたが、平成7年に復活。以来、同保存会が地元公民館で定期的に練習会を開催し、伝承してきました。

当日は幼稚園児から中学年、同会メンバーら約30人が踊り手として参加。「ころね切り」から「弾出田植え」まで農作業を表す14演目を披露すると、見守る地域住民約40人から温かな拍手が沸き上がりました。

平賀会長は「地域の人々の団結力と結の精神で踊りを守り続ける」と語りました。